

新機一転

愛知県議会議長
かんべ ひろみ
神戸 洋美氏



昭和30年生まれ。53年3月、名古屋女子大学家政学部児童学科卒業。平成15年4月、愛知県議会議員初当選（以降5回当選）。20年5月から21年5月まで、愛知県議会産業労働委員会委員長。24年5月から25年5月まで、愛知県議会総務県民委員会委員長。29年5月から30年5月まで、自由民主党愛知県議員団団長。30年5月から31年4月まで、愛知県議会ひとづくり・福祉対策特別委員会委員長。令和2年5月から現職。

家族がいちばんの基本 誰もが活躍できる社会を整える

【女性初県議会議長】 私が県議会議員に初当選したときは、自民党の女性県議誕生は32年ぶりで、1人だけでした。家庭のこともありましたので、当時は会合などの2次会や3次会に参加することが難しかったのですが、そういった場だからこそまとまる話もあり、政治は何時でも動いているのだと気付かされた反面、女性の政治進出を阻む壁も感じました。

それならば、女性議員である自分だからこそ、子育てや教育などの女性が抱える問題に対してできることがあるはずだと考えた時に道が拓けたように感じ、その道を邁進してきました。

【チャンス】 新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの会合が中止ですが、こういう時だからこそ、逆に議員本来の仕事ができると思っています。新型コロナウイルス感染症の影響は、県民の生活に密接に関わっています。様々な施策で対応し、仕事・教育・家族といった問題を一つ一つ解決していくことで、県民の皆様へ安全安心を届けること

ができると信じて活動しています。

【活躍と育児】 人口減少社会を迎えた日本がこれからも成長を続けるためには、女性の活躍が必要不可欠ですが、子どもを産むことは女性にしかできないことです。私が幼稚園園長として、たくさん子ども達と接する中で実感したのは、出産してから3年は子供と向き合った方が良いということです。

しっかり子どもと向き合うことで自立心を育てることができるのですが、そのための3年の育児休暇の取得は、大企業や公務員でなければ難しい部分があります。出産後少しの育児休暇で社会に復帰する現在の仕組みでは、母子に負担を強いることになってしまいますので、しっかりと子育てを務めてから、社会で再び活躍できる環境を整えたいと考えています。

【抱負】 性別や年齢、障がいの有無に関わらず、全ての人々が活躍できる社会をつくりたい。各々が足りない部分を補いつつ、一人一人が一番輝ける場所づくりを進めていきたい。